

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>事業地の障害児 160 人に車椅子を供与し、彼らは自由に移動できることによって、治療を受けやすく、日常生活が改善されて、将来自立するために素地を育成助長する事が出来た。</p> <p>この供与を通してカンボジア政府へ福祉政策向上の必要性を再認識させることができた。特に、障害者支援局局長とは数回にわたり、CBR（地域によるリハビリテーション）における子ども用車椅子の寄与に関する議論を深めることができた。</p>
(2) 事業内容	<p>申請書の事業内容に従って実施し、2015年8月19日にプノンペンの社会福祉省講堂で社会福祉省大臣、障害者支援局幹部、JICA カンボジア幹部、全国のリハビリテーションセンター代表者、障害者支援施設代表、日本大使館参事官他約 300 名が出席して引き渡し式を行った。当日の様子はテレビ 4 局で放映、現地新聞 4 紙が大きく報道された。</p> <p>式後、出席したリハビリテーションセンター、施設への車椅子配布が行われた。</p> <p>障害者支援局長と幹部、JICA カンボジア幹部と今回を含むこれまでのプロジェクトの評価、6 カ月ごとのモニタリングの実行、保守整備の具体的方法に関する確認などを行った。</p> <p>21日はシェムリアップのリハビリセンターで30名の障害児と保護者を招いて贈呈式を行った。彼らの多くは前日からセンターに泊りがけで参加していた。</p> <p>過去車椅子を受け取った障害児の家庭を訪問し、障害児の生活と治療の実態を把握し、車椅子の維持管理の方法についての再確認を行った。</p> <p>供与配布先は申請時の配布先から変更があった。車椅子に適合する症状、身体サイズの子供たちへの配布を優先したことが理由である。事業変更報告書に申請時の配布先と変更された配布先のリストを添付。</p>
(3) 達成された効果	<p>障害児 160 名が車椅子を入手することで、自由に動け、外気や紫外線にふれて肉体的精神的な健康維持が出来、更に座位を保持して骨や筋肉の発達を助けることが出来る。</p> <p>彼らの家族や施設の職員は背負ったり、抱かずに治療のために容易に病院やリハビリセンターでケアを受けることが出来る。家族や職員の裨益者数は $160 \times 3 = 480$ 人になる。</p> <p>また子どもの成長によって小さくなったら他の適合する障害児によ</p>

	<p>リリユースされる。</p> <p>車椅子の供与はカンボジア政府が推し進めている 2014-18 年の障害者支援戦略と一致しているとして社会福祉大臣から高い評価を受け供与の継続を求められた。</p> <p>更に、新任の障害者支援局長は特に車椅子に関心を寄せ彼が推し進めている障害者支援への参考としての意見を交換するため帰国日に再度会議を持った。</p> <p>なお、同局長は 9 月に東京で開催された「アジア大洋州 C B R (地域に根ざしたリハビリテーションセンター) 会議」にゲストスピーカーとして出席。障害者支援に高い関心を有している。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>当会の提携団体である J I C A 同窓会は車椅子を供与した各施設と覚書を交わして維持管理を確実にを行うことを確認した。</p> <p>各施設は 6 カ月ごとにモニタリングとプロジェクトの評価が実施し、J I C A 同窓会を通じて当会に報告される。</p> <p>さらに保守修理のために配布済みのマニュアル(クメール語)に加えて修理の DVD を作成配布することが確認された。</p> <p>カンボジア政府は 2014-18 年の障害者支援戦略での 11 カ所のリハビリテーションセンターで 20,000 人の障害者に無償リハビリテーション実施に車椅子が有効に使われており、今後も寄与していくことになる。</p>